

30年2月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
入荷動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 21.4	△ 7.1
	外材製材品	△ 14.3	△ 21.4	△ 21.4
	その他	△ 10.0	△ 10.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 28.6	△ 7.1	0.0
	外材製材品	△ 21.4	△ 14.3	△ 7.1
	その他	△ 20.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材製材品	△ 14.3	0.0	7.1
	外材製材品	△ 14.3	△ 21.4	△ 14.3
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材、外材製材品の入荷動向とも3カ月連続減少。その他は2月、3月の減少から4月は横ばいに。
・国産材製材品の販売動向は2月、3月の減少から4月は横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。その他は2月の減少から3月、4月は横ばいに。
・国産材製材品の在庫動向は2月の減少から3月は横ばい、4月は増加に。外材製材品は3カ月連続減少。その他は3カ月連続横ばい推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	16.7	16.7	16.7
	柱角 KD12×3	△ 16.7	△ 8.3	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 8.3	0.0	0.0
	母屋角	8.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	16.7	0.0	8.3
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	8.3	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	25.0	25.0	16.7
	柱角 KD12×3	25.0	25.0	16.7
	土台角 10.5×4	33.3	25.0	16.7
	土台角 12×4	33.3	25.0	16.7
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	40.0	20.0	0.0	
米マツ割物	40.0	20.0	0.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	12.5	0.0	12.5	

・スギ柱角KD10.5×3は一部の地域で強含み。KD12×3は弱含み。間柱はやや強含みだが、その他の品目は横ばい推移。
・ヒノキは柱角KD、土台角とも強含み。通し柱は横ばい推移。
・カラマツ土台角は横ばい推移。
・米マツ平角、割物とも強含み。
・北洋エゾマツタルキは横ばい、アカマツタルキはやや強含み。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産スギ、ヒノキ90角等を中心に入荷が悪い。外材は全体的には入荷するが、WWの4mとアカマツタルキ30×40の良いものは少ない。ツガの角、すじ、ねだも少ない。販売動向は記念市後なのでやや少ない。材木店の動向も静か。スギ、ヒノキの入荷が悪いので、在庫少なめとなっている（関東）。
- ・販売状況が国産材、外材とも良くなく、入荷も減らしている。3月も見込みは良くない。販売はやや減少している。国産材、外材とも仕入れ値が上がってきており、消費地（日本国内、都市部とその近郊）と生産地の価格差が大きくなってきている。生産地の価格は強い（中部）。
- ・1月より販売が減少傾向にある（中部）。
- ・原木不足のためヒノキ、スギ製品が集まりにくい（大阪）。

(価格動向)

- ・スギ柱角（KD10.5cm）60,000円/m³、（KD12.0cm）60,000円/m³、スギ桁角（東北材グリーンラフ）40,000円/m³（上げたい）、母屋角（東北材）二等30,000円/m³、スギタルキ（東北材）45,000円/m³、スギ間柱（特 KD）60,000円/m³、スギ加工板（グリーン材）東2,800円、（KD）東4,800円、スギヌキ（東北）40,000円/m³（2,000円上げたい）、秋田材50,000円/m³ スギ平割（プレーナー）45,000円/m³、同（ラフ）43,000円/m³、（プレーナー・ラフとも上げたい）
- ヒノキ柱角（KD）・土台角10.5cm、12.0cm 80,000円/m³、米マツ平角 KD 70,000円/m³、米マツ割物AD 72,000円/m³、北洋アカマツタルキ（アSEMBル単価）（S）70,000円/m³、（P）70,000円/m³、（バンドル単価）（S）68,000円/m³、（P）58,000円/m³（関東）。
- ・スギ柱、桁角の価格は横ばい。需要と供給のバランスが崩れてきている。供給側（生産地：九州）の価格は強い。スギタルキ、間柱、加工板、ヌキ、平割の価格も横ばいで構造材と似たような状況。小径木（16～18cm）の不足から、造作材の価格は値が上昇する可能性がある。ヒノキ構造材は価格が強い。特に九州、四国の産地材は強い。12cm×12cm×6mの通し柱を扱う案件が極端に減少している。3mの商品を金物で繋ぐようになっている。米マツ平角・割物は、アメリカの現地挽き価格が高止まりのまま。国内大手メーカーの値上とともに価格は高い水準になっている。北洋エゾマツ・アカマツタルキは変わらず（中部）。
- ・スギ10.5角は強い。間柱も10.5巾が品薄。ヒノキ柱角、土台角とも強気配。今後も素材減が見込まれる（中部）。
- ・スギ、ヒノキとも価格は横ばい。外材は全て強含み（大阪）。